和教時報

2021年５月15日（土）発行　第1973号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みばん

仲間を増やし、働きやすい職場、子ども・教職員の笑顔あふれる学校をつくろう！

和教組　執行委員長　武田　正利

新年度が始まり一カ月半が過ぎました。新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらない中、みんなで集まることが困難になっていますが、県下の各職場では、つながりを大切にして、和教組への加入を訴え、現在までに、四六名の新しい仲間を迎えています。

うれしい報告がたくさん！

新年度以降、異動により転入された方や新規採用の方、臨時教職員の方々に声をかけて、和教組へ加入してくれたというれしい報告が職場・支部から届いています。

コロナ対策と日々の仕事の両立で、忙しい毎日ですが、仲間を増やして、多忙を解消し、働きやすい職場、子ども・教職員の笑顔あふれる学校をつくっていくために、まだ組合に加入していない方々に声をかけ、和教組への加入を訴えていきましょう！

「あすの教師塾」スタート！

和歌山大学の先生方が、採用試験の勉強の仕方やポイント、小論文の書き方など、懇切丁寧に教えてくれる「あすの教師塾」。和歌山市・田辺市の二会場で、「教育法規」「教育史」「教育政策」「小論文」「集団面接」をテーマに七月にかけて一三回開講します。これまで多くの塾生が採用試験に合格しています。職場で合格めざして、がんばっている臨時教職員の方に「あすの教師塾」を紹介し、「和教組へ加入して、合格をめざそう！」と声をかけていきましょう！

この間の特徴的な取り組み

＊スタート講座に誘って声かけし、その日に加入してくれました。

＊職場の仲間が声をかけ、今年の新採の方が加入してくれました。

＊事務職員部の学習会に参加し、組合にも加入してくれました。

＊職場で講師の先生に「あすの教師塾」や「模試」の話をして加入を呼びかけたところ、すぐに加入してくれました。

＊昨年度から、職場の組合員が悩みなどの相談に乗り、支えてきた青年教職員が加入してくれました。

輝いてワンショット

ごくろうさまでした

（新旧女性部委員会より）

ピンのスポット ㊸

GW真っ只中。コロナ禍の生活にも慣れ、田舎暮らしを見直しています。しかし医療従事者やその家族は日常生活を送るのも大変でしょう。昨年の反省が活かされるどころか、第四波で状況が悪化しているにも関わらず、皆がオリンピックに振り回されています。五〇〇人の看護師派遣など、酷すぎる…。

コロナを水際で止めたと言われる台湾では「緊急事態宣言」も出されていません。IT担当大臣オードリー・タン氏によると、SARSの教訓から、いち早くマスクの配布をシステム化したそうです。日頃から国民の政府への信頼も厚いと言います。ご自身は中学を中退し、性別は「無」というのも興味深いです。台湾はアジアで唯一同性婚を認めている国。私たちが学ぶべきことは多いです。

（I）

教育しゃべる場 channelで繋がろう!!

和教組　書記次長　岩田　美和

第四土曜は「シャベルチャンス！」

新型コロナウイルス感染症は収束する見通しがもてず、学校教育への影響も深刻です。

先生方の働き方はどうでしょう。放課後になっても職員室に戻れず教室で仕事をしたり、パソコンに向かい、イヤホンをしながら仕事に没頭したりという光景もあるかと思います。

お互いが「忙しそうだし」と気を遣いながら、知らず知らずのうちに人とのディスタンスができてはいないでしょうか。そこで『教育しゃべる場channel』を開設しました。最近は夜間の外出を控えている、という想定で、毎月第四土曜の二〇時～二一時半、Zoomミーティングを定例化してみました。

二月からスタートし、テーマに沿って参加者に今の気持ちを思い思いに喋ってもらいます。今まで、何人かの方々にリード発言をお願いし、話題を提供していただく中で、新たに見つかった課題を次のテーマにしています。

画面を通して伝わる想い

四月のテーマは『愛着障害』について和歌山市・支援学校の先生にリード発言をお願いし、担任している子どもの課題や関わり、学校の雰囲気や保護者の様子などを報告していただきました。

思春期を迎えた生徒が、一年前は暴言を吐き無理難題を言いながら教師を試す様な行動ばかり。それを丸ごと受け入れている先生の様子や学校の情景が浮かび、生徒とのやりとりの一言一言に深い意味を感じました。

時間をかけてゆっくりと接する中で、自分から集団に入るようになったり、母親の体調を気遣う言葉が出てきたりと小さな変化を見逃さず、教師集団や母親に丁寧に伝えていること等を話して下さいました。画面を通して熱い気持ちが伝わって来て、聞く側の心も揺さぶられました。

ベテラン味のある完成された実践報告の様に思えましたが、「子どもと関わっていく中で失敗もし、常に子どもの行動から教えられる」という謙虚な姿勢から、私も自身の体験に引き寄せ、多くのことを教えていただきました。

次回は
5月22日(土)
20:00～21:30
テーマは
特別支援教育です

次回「特別支援教育」がテーマ

今回の話は子どもの成長を追って、第二弾をお約束しましたので、アンテナを高くしてお待ち下さい。

近年、特別支援教育への期待が高まり、支援学級の増設や支援学校を希望する生徒が急増しています。

今、特別支援教育に求められていることは何なのか、学校教育の課題がここに凝縮されているかもしれません。次回五月二二日です。事前申し込みは要りませんが、ご自宅からの接続が不安な方は和教組にご連絡下さい。

Zoom
ミーティングID：965 5914 4874
パスコード：481745

2021年度和教組大会 6月5日(土)

人数を制限して オンラインで開催します

和教組　書記長　川口　貴生

2019 年度　和教組大会より

和教組大会が近づいてきました。一年に一度、代議員さんに集まっていただき、前年度の取り組みを総括し、新しい運動方針を決定する場ですが、今年度も新型コロナのために通常開催が困難です。県委員会にお諮りした上で、代議員を半数に制限し、オンラインでの実施を考えています。

昨年度の大きな成果は、県内で「一年単位の変形労働時間制」を実施させなかったこと、不十分ながらも少人数学級を前進させたことです。みんなの力で実現できたこと、そこに組合の意義があることを、ともに確認したいと思います。

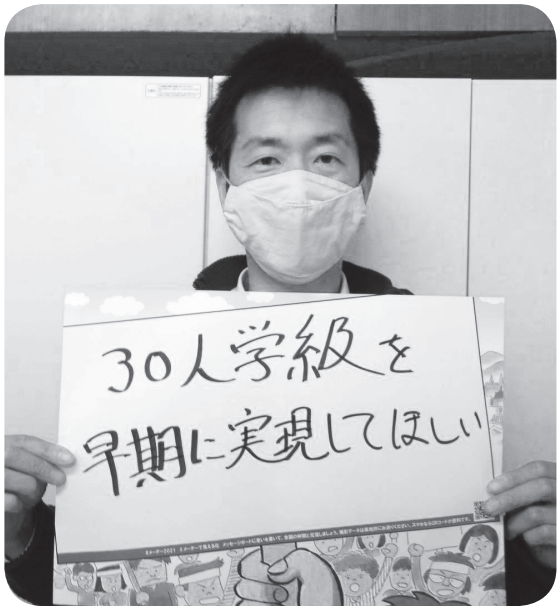
学校にICT機器が届き、中教審が一月、「令和の日本型学校教育」としてICTの活用を打ち出しています。ICTには有益な部分もあります。しかし、昨年度の臨時休校やコロナ禍の教育活動でより強く感じたのは、子どもたちにとっての集団の意味、人間どうしの触れ合いの大切さだったのではないでしょうか。今年度、安易に「個別最適化」に向かわせないための学習や交流が重要です。

長時間勤務解消、ハラスメント防止、育児に係る権利拡大など、方針の重点としていますので、議案書でご確認ください。

特別な形の大会開催ですが、みなさんのご理解とご協力をよろしくお願いします。

子どもたちのために 県中央メーデー
教育予算の増額・少人数学級の実現を！

和歌山市支部　書記長　平田　秀一



今年度も、メッセージボードを書いて写真を撮影し、県地評に送るという形でのメーデーへの参加となりました。

コロナの感染拡大で、なかなか集まりにくく、多くの組合員さんにメッセージボードを書いてもらえない状況がありました。そんな中で、若手の組合員さん数人にメッセージをお願いしたところ、メーデーというのは聞いたことはあるけれど、何かわからないという人もいました。メーデーの意義を説明したところ喜んでメッセージを書いてくれました。

「子どもたちのためによりよい環境を！」というメッセージには、コロナ禍でいろんな負担や我慢が増えた学校生活を続ける子どもたちを、何とかしてあげたいという思いが伝わってきます。また、「少人数学級の実現を！」というメッセージには、三五人学級ではなく三〇人、それ以下への学級定数の引き下げを早く求めるという気持ちが書かれていました。

子どもが安心・安全に豊かに成長できる環境を整備することが求められてる今こそ、教育予算増額を目指しましょう！

私の
human library

8 子ども達とかかわる上で、大切にしていること

東牟婁支部　神倉小学校分会　瀬古　陽

王子ヶ小で五年、パリ日本人学校で三年、そして神倉小で二年目…気がつけば教師生活一〇年目になりました。様々な経験やたくさんの先生方と接する中で、私自身がめざしたい教師像が少しずつ確かなものになってきました。

第一は、基準はいつも子どもであること。

子ども達が安心感のある学級をつくるには、どの仕事を優先すべきか、何に時間をかけるべきなのか。それを考える基準は、学校でも保護者でもなく、子どもであり続けたいと思います。

第二は、たくさん遊び、笑い、いつも笑顔で。

いつの時代も子どもは「遊んでくれる人」が大好きです。できるだけ昼休みは子ども達と遊ぶように心がけています。そして、たくさん話し、よく笑い、いつも笑顔でいること…ずっと続けていきたいと思います。

第三は、コメントパワー！

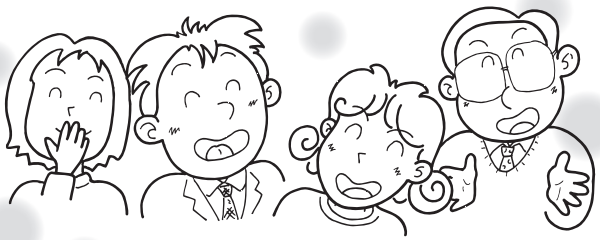
日記や漢字ノート、学習プリントにワークシート…子ども達が一生懸命書いたものには、必ずひとことコメントを添えるようにしています。私達が思っている以上に、担任の言葉は、子どもにとっては魔法の言葉です。先生にほめてもらった。認めてもらえた。その気持ちが自信につながります。（確実に仕事量は増えてしまいますが…）

第四は、聞くことと共感すること。

子ども同士のトラブルがあったとき、話をしっかり聞き、共感してあげることによって、子どもは自分の非を認められたり、素直にあやまることができたりします。これからもまず子どもを大切に考えられる教師であり続けていきたいです。

全教共済2021年度募集中
ますます充実! この機会に保険の見直しを!
生命共済　火災共済
医療共済　傷害共済
医療共済終身タイプ
あなたをひとりにしません
共済期間
2021 8/1 ▶ 2022 7/31
申込み〆切 6/25
加入及びお問い合わせは和教組各支部まで
和歌山県教職員共済会 〒640-8269 和歌山市小松原3-20(教育会館1F)
TEL073-436-7860　FAX073-436-8688

安心と信頼
教職員のための
『教弘保険』



(株)和歌山教弘
提携会社：ジブラルタ生命保険株式会社
■和歌山第一営業所　073-421-8250　■和歌山第二営業所　073-421-8250　■和歌山第三営業所　073-421-8250
■橋本営業所　0736-33-1620　■田辺営業所　0739-22-5751　■新宮営業所　0735-22-0101